

## 6. 広場の計画・整備・運営について

## 6. 広場の計画・整備・運営について

本章では、前章までに整理した空間的な計画・設計以外の点を含む計画・整備・運営に関する留意点を整理するとともに、実際に低未利用地の活用について議論する際に求められる検討の流れについて整理した。

### 6-1. 計画・整備・管理／運営に関する留意点

- 本調査は主に空間レイアウトおよびそれに関連した広場評価に関するノウハウの整理を対象とするものだが、良い広場空間を整備するためには、実際の計画・整備・運営のそれぞれを適切に実施することが重要である。
- そこで、文献調査および専門家ヒアリングを通じて得た、計画・整備・運営に関する留意事項を示す。

#### 計画に関する留意点

- 計画の初期段階では、整備後に広場がどのように使われるのか、立地・周辺環境などを十分に分析し、広場整備の是非を検討すること。
- 人々の動線が重なる場所、集客施設の前や駅前など、まちにおける回遊の核、賑わいの核となりうる場所は、どの都市にも何らかの形で存在する。周辺環境との関係性を考慮しながら、そうした場所に広場的な空間を確保し、広場周辺への波及効果を生み出し、まちなかの魅力向上を目指すことが大切である。
- 市民、行政、専門家および関連団体代表者たちが連携し、一つの公共事業を市民にも公開しながら検討、推進していくことによって、公共空間のパブリック性が高められる。
- 計画段階において、市民ワークショップなどを開催し、一般市民が計画に参加することによって、公共空間に対する市民の所有意識が高められる。そういった意識は、供用後、より積極的な市民の運営参加へと繋がっていく。
- 周辺の人通りや、既存の広場等について、観察・調査を行い、そのデータ等を用いて、論拠に基づき計画を行う。

#### 参考文献

賑わいづくり施策「発見」マニュアル  
著者：国土交通省  
出版年：平成26年

オープンスペースを魅力的にする  
著者：プロジェクト・フォー・パブリックスペース  
翻訳：加藤 源、服部 圭郎、鈴木 俊治、加藤 潤  
出版年：平成17年（原著 平成12年）

#### 整備に関する留意点

- 設計（デザイン）は統合の作業であるため、本調査の個別項目に従うだけでは十分でない。検討の際には、能力の高い専門家との協働作業が不可欠である。
- 広場の立地や目指す機能に応じて、建築、ランドスケープ、環境、照明、歩行者動線、コミュニティなどの適切な専門家によるチームで設計案の検討を進めることが効果的である。
- 本調査では主にレイアウトデザインについて採り上げているが、それ以外のデザイン要素（素材、ディテール、植栽など）についても多くの知見を活用すること。

#### 参考文献

市民が関わるパブリックスペースのデザイン  
著者：小林正美  
出版年：平成27年

Public Places Urban Spaces  
著者：Matthew Carmona、Tim Heath、  
Taner Oc、Steve Tiesdell  
出版年：平成22年

#### 管理・運営に関する留意点

- 現場の状況に即した柔軟な管理を行うためには、地域の団体などに管理を任せることが有効な手段である。活用と維持管理をあわせて地域に委ねることにより、地域のニーズに即したきめ細やかなサービスの提供が可能となる。
- 常に美しく空間を保つことが大切である。ゴミが落ちていない環境をつくりポイ捨てを抑制したり、カフェテーブル、椅子を整理整頓し美しく配置していること。空間に対する負のイメージを改善することで、そこで行われる活動を変え、犯罪不安や反社会的行為も低減させられる。
- 広場周辺の店舗業者と連携した運営・活動を増やすことが、日常的にアクティビティ溢れる広場空間の実現に必要である。広場を様々な活用できる人材を増やしていくことが大切である。
- 立地条件等によっては、積極的にイベントの開催頻度を増やすことを試みることも大切である。
- 定期的に広場の利用状況の調査等を行い、広場が適切に機能しているかどうか、地域のニーズにあっているかどうか確認することが大切である。

#### 参考文献

にぎわいの場 富山グランドプラザ  
著者：山下裕子  
出版年：平成25年

Place-Keeping  
著者：Nicola Dempsey、Harry Smith、Mel Burton  
出版年：平成26年

## 6-2. 低未利用地の活用に関する留意点

- 今後、地方都市の中心市街地などにおいては、閉店した店舗跡地を広場化して街の活性化につなげることなどが議論される場面が増えると思われる。その際に、十分な検討なくして広場化を進めることは、さらなる低未利用空間を生み出してしまうことにもつながりかねない。
- そこで、広場空間創出の検討においては、以下のような点に留意して十分な検討・議論を進めることが期待される。

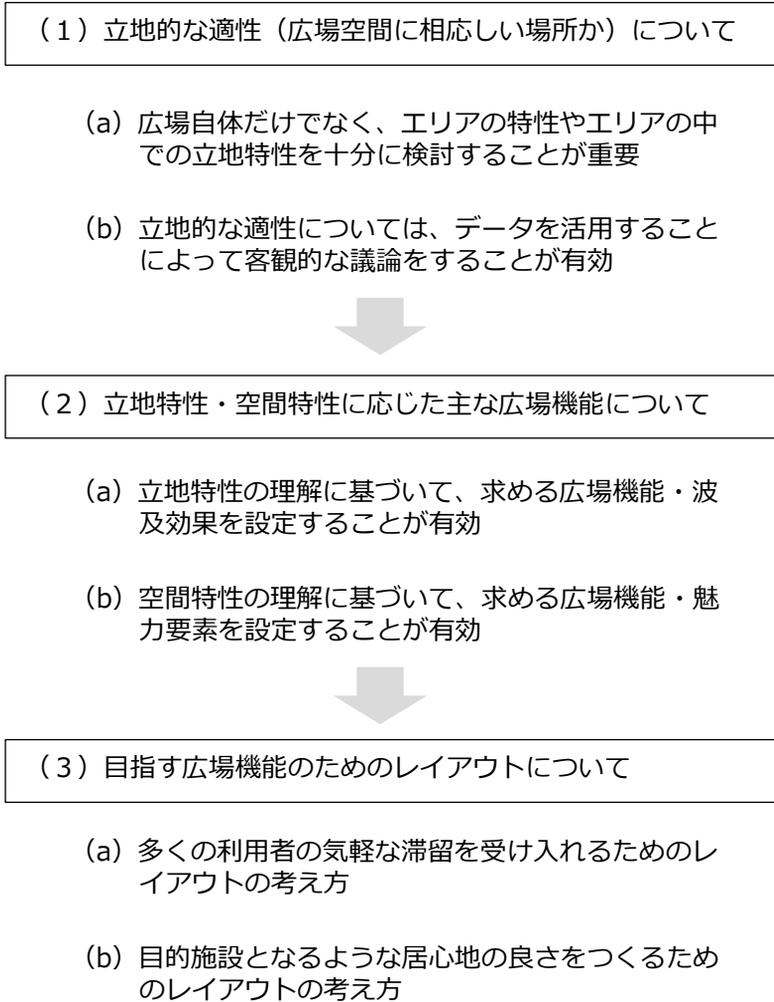


図 6-2-1 検討の流れ

# (1) 立地的な適性 (広場空間に相応しい場所か) について

(a) 広場自体だけでなく、エリアの特性やエリアの中での立地特性を十分に検討することが重要

## [ポイント]

- ・大規模ターミナル駅の前、商店街の中心など、街の中心的なエリアとの「位置関係」や、街路との「接続状況」に応じて、人通りの量や利用者特性は大きく変化する。

⇒ そこで、これらの特性に着目した分類マトリックスで概ねの立地特性を理解する。

[参考] 街のなかでの位置と、街路との接続状況によって4つに分類ができる。P.48

### 「立地特性：①位置」



#### 中心エリア (インナー)

多くの歩行者が回遊し、街の中心として認識される賑わいの中心エリア。  
例えば、大規模ターミナルとなる駅の前、商店街の中心、街の中心的な商業施設の前など

#### 周縁部 (アウトター)

中心エリアからは離れているものの、その有効活用が望まれる公共空間。  
例えば、小さな駅の前、商店街の端、駅から少し離れた公共施設の前など、回遊性を広げたいと思えるような場所。

### 「立地特性：②接続状況」



#### 複数交差 (クロス)

交通結節点や拠点施設、商店街などと接続し、複数の流れが交差する立地。エリアの歩行者動線の焦点や結節点。  
例えば、複数の街路が交差する地点、複数の方向から人が集まる駅前など



#### 一本 (シングル)

商店街など単一の人の流れと関係する立地。敷地に1方向の動線のみが接続する状況。  
例えば、街なかの細街路の途中や、その他、商店街の中間地点、大きい施設の中など

	① 位置	
	中心エリア	周縁部
② 接続状況	複数交差	一本
	A	B
	C	D

図 6-2-2 立地特性の分類マトリックス

## [ポイント]

- ・交通結節点近くの広場では、そうでない広場と比べて多くの滞留行動が発生しやすい。また、広場滞留後は近くの店舗に立ち寄りやすいなど、広場の近隣施設は広場との相互関係が強い。

⇒ そのため、交通結節点との関係、周辺の店舗分布との関係を把握する。

[参考] 交通結節点の近くは利用者が多い。P.85

広場近くに店舗が多くあると、広場整備の波及効果が期待できる。P.78

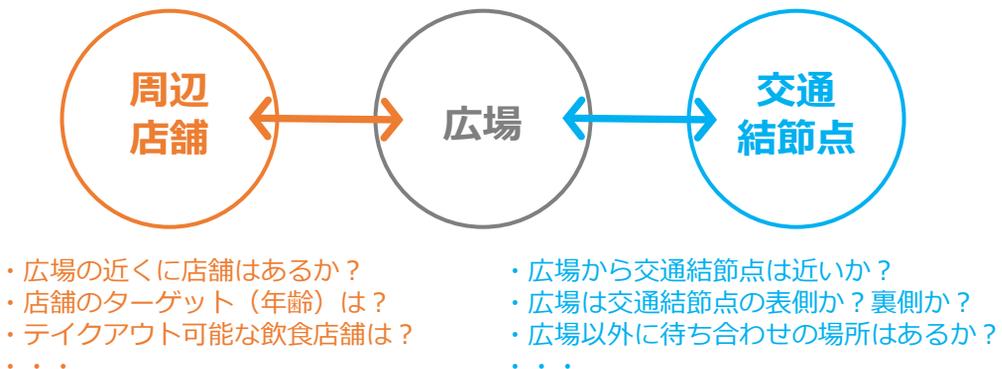


図 6-2-3 交通結節点・周辺店舗との関係イメージ

(b) 立地的な適性については、データを活用することによって客観的な議論をすることが有効

[ポイント]

- ・広場の利用者・アクティビティは、平日、休日、時間帯、天候などに応じて、多様に変化・発生する。限られた情報・経験に依存して、一面的な、または主観的な議論にならないように注意する。

⇒ 歩行者行動に関するデータには様々なものがあり、それぞれの特性を理解して用いる。

[参考] 観察調査によって、エリア内の人々の行動を詳細に把握する。P.102  
ICTデータから、広範かつ継続的な歩行者量や、個人の属性・行動の脈絡などの情報を得る。P.98-100

表6-2-1 各種データと取得情報の関係

情報種類	広場評価との関係 (一例)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
		携帯電話 基地局データ	携帯電話 GPSデータ	ビーコンに よる取得 データ	自動計測装置 による取得 データ	観察的手法 による取得 データ	アンケート/ ヒアリングに よる取得データ
エリア の人通り	・広域を含む街区エリアにはどれほどの人通りが見られるか?	●	△	×	△	△	×
周辺施設 立ち寄り状況	・広場利用後に周辺店舗への立ち寄りは見られるか?	×	●	△	×	△	△
広場利用人数	・広場の利用人数は?	×	×	△	○	○	×
広場利用時間	・広場利用者の滞留時間は?	×	○	●	●	○	○
広場利用行動	・広場内で滞留行動はどれだけ発生している? ・滞留中に見られる行動は?	×	×	×	×	●	○
属性 (年齢・性別)	・どういった年齢・性別の人が利用しているのか?	○	×	△	×	○	●
居住地	・利用者は周辺住民、観光客のどちらか?	○	○	△	×	×	○
データ取得の 容易性	・データ取得にかかる日数・費用は?	○	△	×	×	○	×
データの 精度・客観性	・取得データは十分な精度、客観性があるか?	△	△	△	○	○	×

大

スケール

小

タイプ

その他

## (2) 立地特性・空間特性に応じた主な広場機能について

(a) 立地特性の理解に基づいて、求める広場機能・波及効果を設定することが有効

### [ポイント]

- ・賑わいのある広場を実現するためには、より多くの人に、より長時間の利用を期待しがちであるが、一般的に多くの人が集まれば集まるほど、その空間の落ち着き度合いは低下するものである。

⇒ 人通りの多い場所では短時間滞留、少ない場所では長時間の利用が主と捉える。

[参考] 人通りの多い場所から離れるほど長時間の利用が多い。P.81

### [ポイント]

- ・広場単体の魅力で多くの人をそのエリアに集客することは難しいが、賑わいのあるエリアの近くに魅力的な広場を整備することにより、歩行者の回遊範囲を広げることは大切である。

⇒ 商店街端部などでは、広場の魅力によって集客し、近隣の人通りをつくるマグネット（アンカー）効果を期待する。

[参考] 長時間滞留者は、飲食・会話で楽しく過ごす。P.77

### [ポイント]

- ・快適に歩行し続けられる距離にはすべての人に限界があり、特に高齢者や幼児は少しの移動で疲れてしまうため、街なかでの行動範囲が限られてしまう。疲れた状態では街なかでの購買意欲も低下してしまう。

⇒ 商店街端部などでは、広場で休憩できることによって回遊行動が活性化される効果を期待する。

[参考] 短時間滞留者の多くは、滞留後に周辺の店舗へ立ち寄る。P.77

(b) 空間特性の理解に基づいて、求める広場機能・魅力要素を設定することが有効

[ポイント]

・滞留空間の居心地の良さは、敷地の囲まれ具合や、隣接施設との関係性が強く影響している。

⇒ **敷地境界部の囲み度や周囲の建物の開かれ方に応じて、空間づくりの方向性を議論する。**

[参考] 敷地境界部の囲み度と周囲の建物のアクティブ度によって4つに分類ができる。P.49

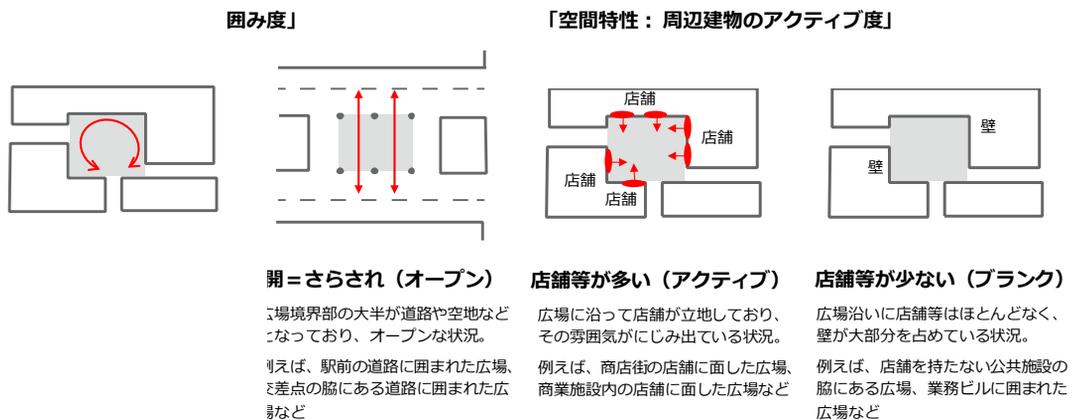


図 6-2-4 空間特性の捉え方

[ポイント]

・若者だけが集まる商業施設、お年寄りだけが集まる公園など、特定の属性の人だけが集まる空間は、他の人にとっては居づらい環境として感じられることが多い。

⇒ **滞留設備を設置できる空間的余裕のある場所では、幅広い属性の利用者を受け入れることを検討する。**

[参考] 滞留設備のある広場空間は多様な属性の人に利用される。P.79



図 6-2-5 多様な人が集まる広場の様子

### (3) 目指す広場機能のためのレイアウトについて

#### (a) 多くの利用者の気軽な滞留を受け入れるためのレイアウトの考え方

##### [ポイント]

- ・賑わいある広場を実現するためには、必ずしも長居をしてもらう必要はなく、短時間利用でも多くの人に利用されれば賑わいは生まれる。大規模ターミナル駅の近くなど、必然的に多くの人が集まる場であれば、必ずしも長時間滞留を促す必要はなく、多くの人に快適な短時間滞留を提供することも重要である。

⇒ より多くの人々が快適に利用できる工夫を行う。

[参考] テーブルは小さめのもののほうが、フレキシブルな使い方ができる。 P.87

飲食店近くには、十分な数の座席を配置すると良い。 P.88

植栽に近い座席（囲まれた場所やエッジ）は個人にも利用されやすい。 P.83,86

#### (b) 目的施設となるような居心地の良さをつくるためのレイアウトの考え方

##### [ポイント]

- ・広場全体の居心地の良さは、空間特性（敷地境界部の囲み度合い、周囲の建物の開かれ方）に強く影響を受けるが、それらを自由に計画できることは稀である。
- ・広場内の工夫で居心地の良さを実現するためには、①広場内のどこを「滞留のための空間」とし、どこを「移動のための空間」とするのか。②どういった滞留空間・滞留設備とするのかを、適切に設定することが重要となる。

⇒ 歩行動線を適切に設定したうえで、それらに邪魔されない滞留空間を確保する。

⇒ 多様なアクティビティを受け入れる滞留設備を設置する。

[参考] デザイラインが横切る滞留空間では短時間利用が多い。 P.82

テーブル席とベンチとでは、テーブル席のほうが飲食に利用されやすい。 P.80



図 6-2-6 多くの人が集まる駅前広場



図 6-2-7 居心地良く過ごしている様子